

■会長/山田 文雄 ■幹事/小平 直史  
 ◆司会=北川 和彦SAA、合田 敦子副SAA  
 ◆ゲストビジター=なし

◆会長告知・山田文雄君=本日はゴルフ例会という事で、プレー不参加の方も山の上にお集まり頂き、有難うございました。先月、花岡副委員長から間接的に聞いて気づいたのですが、今年が諏訪湖カントリークラブ創立60周年になります。記録によれば諏訪湖カントリークラブは当クラブの初期メンバーの林清市さん、寺島清七さん、藤原正男さんはじめ、諏訪ロータリークラブ会員が中心となって作られました。諏訪ロータリークラブ十年の歩みに、当時の経過が9名の方により綴られていましたので、今日はその中から、今から57年前、寺島清七さんの残された文章を紹介させていただきます。

諏訪盆地全域に急激に発達した精密工業と、温泉と山と湖を持つ高原観光地としての将来性が密着して、諏訪盆地の国際的色彩が濃厚になった事は否めない。このような秀麗な地域にゴルフ場が無いのは「美人に眼が欠けているが如くである」との酷評を受けたこと再三である。(中略)…。大資本の力を借りなければ到底建設は不可能であると考えて諦めていたものである。ところが、昭和32年6月、我々のロータリークラブが誕生し、諏訪盆地全体をその区域として発展成長し、それぞれの地域にある業者のトップクラスの人々相互の交流が密になった。そしてロータリー精神による融合が深まるにつれて、諏訪地域発展の将来性についてしばしば議論が交わされ、いわゆる部落根性を払拭して大同団結すべきであり、現在のままの姿では近代日本の発展に取り残されるであろうとの考え方が支配的となった。この大同団結の最初の布石として、ロータリアンが旗振り役を務め「大資本を導入せず、地力でゴルフ場を建設しては」との発議があり、ここに当時の会長林清市氏が積極的指導者として先頭に立って、綿密な事業計画作成に着手された。…。霧ヶ峰中腹通称野田原を中心とする植林地帯30万坪を借り受け、温泉組合の若主人たちを中心として、当時の藤原幹事が音頭取りとなり、腰弁当で林野を伐採し測量と設計を完了。直ちに業者を選定して工事にかかり約1年にしてそのレイアウトは完成した。

東京の会員募集のため有名人を理事長にすべく、いまは亡き竹内四郎報知新聞社長に懇請して快諾を得た。竹内理事長は数回にわたり現場視察をし、われわれハイツ観光の責任者と懇談し、常に口を極めて称賛してくれた言葉は終生忘れ得ない。日本には300以上のゴルフ場が建設されているが、その地域社会の人々のみの力で、地域発展のためという大目的だけで建設されたものは皆無である。全て営利を目的とする大資本の力が主体となっている。この意味で誠にスッキリとした好ましい建設主体である。ことにその役員諸君が表裏なく、混然一体となっているのは敬服に値する。18ホール完成、クラブハウス竣工、30人収容のロッジの完成を待って、盛大な開場式を挙げたのが昭和38年7月28日である。多数のカントリークラブ会員であり、同時に諏訪地区ロータリークラブの会員(当時岡谷地区が分離して岡谷RCが誕生した)の

ほとんど全員が参加しての式典と、初球を打った瞬間の感激はいまなお胸つまる思いがする。

終わりに「ロータリアンの良識ある団結と奉仕は、その地域の文化水準を高め得る最も力強い原動力である」ことを明記したい。今日の会長告知は以上とします。

◆幹事報告・小平直史君=①本日の例会はゴルフ例会です。親睦委員会の皆様よろしくお祈りします。②次回9/22(金)の例会は、準法定休日となります。次の例会は9/29(金)「前年度決算・新年度予算」です。会計・監事の皆さん、宜しくお願いします。また、9/29の例会には、秦野RCの会長・幹事他全4名が出席されます。③10/22(日)諏訪Gポリオデー・チャリティーコンペを三井の森蓼科ゴルフクラブで行います。ぜひ多くの方のご参加をお願いします。

◆ゴルフ例会(諏訪湖カントリークラブ) =12名参加  
 ○集合写真





○優勝 小針 哲郎君 (NET 73.0)



○準優勝 岩波 寿亮君 (NET 74.8)



○3位 川村 総一郎君 (NET 78.4)



○4位 山田 文雄君 ○5位 合田 敦子君

○6位 倉谷 英行君 ○7位 小口 泰幸君

○8位 小平 直史君 ○9位 平林 正光君

○10位 飯田 兼光君 ○11位 宮坂 康弘君

○12位 伊藤 武利君

○ナイスショット集



◆今後の例会日程

9/29(金)	前年度決算、前年度予算
10/6(金)	クラブフォーラム 米山月間
10/15(日)	諏訪湖 RC 合同諏訪湖清掃
10/20(金)	アクト合同例会